

令和 4 年 6 月 5 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K00052

研究課題名(和文)中国近世諸子学の構想：宋明道家思想研究の成果拡充を企図して

研究課題名(英文)The concept of the pre-modern Chinese zhuzi studies : Plans to expand the results of research on Song-Ming Taoist thought.

研究代表者

三浦 秀一 (MIURA, SHUICHI)

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：80190586

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、宋明時代の道家思想に関する各自の研究をさらに深め、主として以下の二点について新たな成果を示すことができた。

：従来はその名前を知られる程度だった知識人による老子注を讀解し、その内容や特徴、思想的な位置を明確にした。具体的には北宋の李昉、金代の時雍や張秉文、明代の薛蕙や王道などの注釈に関する分析がある。：宋明時代の知識人は『老子』や『莊子』以外の諸子として、たとえば『文子』や『管子』、『法言』などの思想に興味を抱いていた。かれらのそうした知識が老莊注に反映されていることを、その意図や時代性とともに明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国近世の知識人は、『老子』に由来する「無欲」と「有欲」の組合せや『莊子』に拠る「坐忘」や「双忘」といった概念に思想的価値を見出し、該書に対する注釈を熱心に作成した。それは、道家思想それ自体の深化をめざす営為であるとともに、同時代の儒学思想の活性化を企図する思想運動でもあり、本研究は、その運動の広汎な展開と、その展開に伴って拡大した老莊以外の諸子書への関心の昂揚とを解明した。その成果は、儒学思想の展開を中心に語る従来の中国近世思想史研究に対し、視野の拡張を要求する学術的意義をもつ。

研究成果の概要(英文)：In this study, we have further deepened our own research on Taoist thought in the Song and Ming dynasties, and have been able to present new results mainly on the following two points.(i): We read the Laozi Commentaries by intellectuals whose names had previously only been known, and clarified their contents, characteristics and position in the history of thought ; Specifically, the commentaries of Shi Yong and Zhang Bingwen of the Jin dynasty, and Xue Xue and Wang Dao of the Ming dynasty.(ii): Intellectuals in the Song and Ming dynasties were interested in the ideas of other zhuzi besides Laozi and Zhuangzi, such as Wenzhi, Guanzi and Fa Yan. We have shown that their knowledges are reflected in the Lao-Zhuang commentaries.

研究分野：中国近世思想史

キーワード：中国近世 諸子学 老子 莊子 道家 文子 法言 管子

## 1．研究開始当初の背景

本研究の代表者である三浦秀一は、かつて「明代荘学史研究」と題する課題名で科研費の補助を受け（2004～2005）、明朝の国家教学に異を唱える知識人や専門の道士による老子注などを分析するなか、明代思想史全体に占めるそれらの位置について考察をおこなった。一方中国では、世紀が変わる時期、熊鉄基らの『中国老学史』（1995）や『中国荘学史』（2003）といった通史的研究が上梓されるなど歴代の老荘学に対する関心が高揚し始めていたが、中国近世の老荘注に限定して言うならば、両著は、代表的ではあるものの一般に知られた作品のみを、外在的な分析方法によって一律に検討するにとどまっていた。しかしこれらの欠点に対しては、方勇の大著『莊子学史』全三冊（2008）がその克服を企図し一定の成果を挙げた。だが方著に在っても、宋明性理学史に対する理解の浅薄さ故か、思想史一般とのすりあわせが表面的であり、またその書名から分かるとおり、老子注や関連の道教典籍には敢えて言及しないという窮屈さを有してもいた。他方、本研究の研究分担者である山田俊は、宋人の各種老荘注および関連する道典を対象とした個別の分析を継続的におこない、その成果を、北宋初期の三教融和の思潮から朱子学の成立にいたる宋代儒学思想史と対置させた。一連の研究は『宋代道家思想史研究』（2012）にまとめられている。なおこの方面の研究では出遅れていた台湾でも、徐聖心『青天無處不同霽 - 明末清初三教會通管窺』（2010）や楊儒賓『儒門内の莊子』（2016）など、思想的な観点に立脚しつつ個別の検討課題を掘り下げる優れた専著が登場した。

## 2．研究の目的

本研究は、上述したような老荘学に関する研究成果の充実をめざすとともに、老荘学を包括する中国近世諸子学という学問的枠組みを設定することにより、いわゆる新儒学と当時の道家思想ひいては諸子学との密接な関連性について具体的に解明し、従来の中国近世思想史像をより多面的かつ豊かなものとして捉え直そうとするものである。

## 3．研究の方法

老荘学の精華とも称しうる諸注釈書への分析を幅広くおこなう一方、各種の類書や目録、道蔵や科挙関連の出版物、大型の諸子学系叢書など、これまで十分には活用されてこなかった諸文献をも渉猟しながら、たとえば陰符経注など老荘学周辺の道家思想にも着目し、中国近世道家思想史の実態を具体的かつ詳細に解明する。そうした思想の展開を諸子学史の流れとして位置づけ、さらには中国近世思想史の全体と関連づける。

## 4．研究成果

山田は、11～13世紀中国の知識人もしくは専門道士による老子注や陰符経注、ないしその他の道教関連文献を幅広く調査分析した。その成果は、2022年2月刊行の『金朝道家道教の諸相』にまとめられている。同書所収の論考のなかから本科研の研究内容と密接に関連するものを挙げるならば、第一篇第二章「時雍『道德真経全解』の思想に就いて」・第三章「金朝『道德経』

注釈資料としての李霖『道德真經取善集』に就いて」・第四章「李霖『道德真經取善集』の思想に就いて」・第五章「寇才質『道德真經四子古道集解』に就いて」・第九章「張秉文『道德真經集解』に就いて」である。また、同書所収の各篇以外にも、「中国近世思想史に於ける司馬光、『法言』、『老子』」や「『老子』注釈史に於ける『文子』 - 『四子古道集解』補論」などがある。

金朝の道士もしくは知識人による老子注の内容分析は、従来、単発的にしかおこなわれず、その全体を見通したものとしては、山田の研究がその先駆となる。北宋期の老子諸注に関する専著をもつ山田は、そうした研究との比較により、金朝の老子著注の全般的傾向が北宋のそれらを確実に受け継ぎつつ、同時期の南宋よりも積極的に道家思想の吸収をすすめていたことを、説得的に解明した。他方、諸子学の展開という点でも、寇才質『道德真經四子古道集解』所引の「四子」からとくに『文子』に対する引用傾向およびその歴史的背景に分析を加え、さらにその展開を追跡した。『法言』に対する司馬光の注釈書は、南宋に入ると儒道の四子の一角に採用され、それを増広した六子は明代中期以降、広く普及する諸子書となるのだが、その司馬光『法言注』の内容が、「修身」という司馬光の関心に沿ったものであったことも、上記の論考によって明らかになった。また、『法言』の例に確認できるように、いわゆる道家系文献に限られず、『孟子』もまた近世以降の道家道教思想が積極的に援用していたことを「『孟子』“萬物皆備於我”句與道家道教」で明らかにし、諸子を巡る議論の場を道家道教から解放することを試みた。

三浦は、明代後半の知識人による老子注や諸子書に関する発言を中心に分析し、その成果の一端を「明代老学史の一側面」や「明朝万曆期の諸子学に関する一考察」との論文で紹介した。前者は、王陽明とほぼ同時代を生きた薛蕙と王道、兩名の老子注の内容とその思想史的位置づけを考察する論考であり、薛王兩名の注釈書はともに仏教思想の造詣を前提としつつも、薛蕙はそれを文字には記さず、逆に王道は仏教由来の表現を注釈に用いた。国家教学の形骸化が進行し新たな儒学像を求める気運が高まった明朝の正徳・嘉靖期、王陽明が禅仏教と親和的な学説を創設したことは知られているが、この時期、道家思想や仏教由来の思想を儒学に取り込むうえで、多様な試行錯誤の繰り返されていたことが推測できる。

三浦論文の后者は、安徽休寧の人である詹景鳳が、万曆十一年から約八年の歳月を費やして編んだ『詹氏性理小辨』の諸子理解を解明したものである。『性理小辨』六十四卷は、明朝永楽期に勅撰された『性理大全書』を批判する意図のもと編まれた書物ではあるが、その巻五十五以下の六巻は「諸子」(一～六)と題され、そこに撰者詹景鳳の諸子学観が集中的に述べられる。その「諸子一」は「管子」から「莊子(郭註)・列子・白圭」までの九子を、「諸子二」は「告子・郷愿」から「孫子・呉子」までの戦国諸子に「淮南子・陸賈新語」の二書を加えた計四十四子を、次の二巻は「仙」と「仏」だが、「諸子五」は「董子・賈子」以下の漢魏六朝四十七子を、「諸子六」は劉劭人物志など後世のいわゆる諸子の範疇から外れる書物のほか「文中子」や「天隱子」などを経て「国朝諸子」二十三名を収めるとおり、詹景鳳は歴代の諸子書の涉獵を学問の基盤に据えた。その理由は、諸子書にも「大道」の一端が示されると判断し、「大道」実現のよすがをそれらから幅広く採取しようとしたからであり、なかでも『管子』および『莊子』に対しては、その一部に欠陥があるとしつつも、基本的に高い評価を与えた。それは「双忘」の境地を希求する詹景鳳の思想的反映ではあるが、それを当時の人びとが注目しはじめた『管子』や、万曆の知識人社会に好評だった『莊子』郭象注の主旨でもあるとして提示した点に、万曆期の諸子学の一斑をうかがうことができる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 三浦 秀一	4. 巻 50
2. 論文標題 仏老を雑へて仏老を超ゆ（上）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東洋古典学研究	6. 最初と最後の頁 69-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦 秀一	4. 巻 124
2. 論文標題 明代老学史の一側面 - 薛蕙『老子集解』を論じて王道『老子億』に及ぶ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 集刊東洋学	6. 最初と最後の頁 106-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 俊	4. 巻 65-2
2. 論文標題 《凝陽董真人遇仙記》浅析 - 董守志、登真洞、全真道	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 師大学報	6. 最初と最後の頁 27-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 俊	4. 巻 21
2. 論文標題 《孟子》“万物皆備於我”句与道家道教	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 諸子学刊	6. 最初と最後の頁 44-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 俊	4. 巻 13
2. 論文標題 『上清太上開天龍王經』の文献的研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 熊本県立大学大学院文学研究科論集	6. 最初と最後の頁 1-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦 秀一	4. 巻 122
2. 論文標題 万暦の王学者鄒元標の前半生とその思想	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 集刊東洋学	6. 最初と最後の頁 42-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 俊	4. 巻 12
2. 論文標題 『元始天尊説生天得道經』と「佛道圖文碑」「霍習墓幢」 宋金元三朝道教の歴史性と地域性問題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 熊本県立大学大学院文学研究科論集	6. 最初と最後の頁 193-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 俊	4. 巻 2019-2
2. 論文標題 李昉《道德経疏》初探	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 道教学刊	6. 最初と最後の頁 67-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 俊	4. 巻 122
2. 論文標題 趙秉文『道德眞經集解』再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 集刊東洋学	6. 最初と最後の頁 22^41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦 秀一	4. 巻 51
2. 論文標題 仏老を雑へて仏老を超ゆ(下)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋古典学研究	6. 最初と最後の頁 57-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦 秀一	4. 巻 32
2. 論文標題 『詹氏性理小辨』考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 陽明学	6. 最初と最後の頁 29-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三浦 秀一	4. 巻 127
2. 論文標題 明朝万暦期の諸子学に関する一考察 - 『詹氏性理小辨』考補	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 集刊東洋学	6. 最初と最後の頁 63-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 俊	4. 巻 1
2. 論文標題 『老子』注釈史に於ける『文子』 - 『四子古道集解』補論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 熊本県立大学共通センター紀要	6. 最初と最後の頁 100-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 俊	4. 巻 81
2. 論文標題 中国近世思想史に於ける司馬光、『法言』、『老子』 - 性・質・学・諸子を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 熊本県立大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 91-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田 俊	4. 巻 14
2. 論文標題 「但凝空心、不凝住心」 - 『洞玄靈寶定観経』の修心論とその影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 熊本県立大学大学院文学研究科論集	6. 最初と最後の頁 1-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 三浦 秀一
2. 発表標題 明代中期における王守仁の道教「惑溺」と思潮の動向
3. 学会等名 日本道教学会第七十一回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田 俊
2. 発表標題 多源、多元、多維的道家道教文化 - 蕭濤父先生与道家道教思想文化研究
3. 学会等名 “蕭濤父先生与当代中国哲学”研討会（騰訊會議（Tencent meeting））
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三浦 秀一
2. 発表標題 徳川時代前中期の儒学與中国傳來的典籍
3. 学会等名 2019「東亞儒学的經典與文化」國際學術研討會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田 俊
2. 発表標題 趙秉文『道德眞經集解』再考
3. 学会等名 第67回九州中国学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山田 俊
2. 発表標題 《孟子》“萬物皆備於我”句與道家道教
3. 学会等名 諸子學研究的回顧與反思:第八屆「新子學」國際學術研討會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 山田 俊
2. 発表標題 “凝住心”、“凝照心”小攷 以《洞玄靈寶定觀經》為核心的考察
3. 学会等名 第二屆跨文化漢字國際研討會：漢字与道文化世界傳播（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三浦 秀一
2. 発表標題 明代の知識人における仏經道典の読誦とその背景
3. 学会等名 東方学会シンポジウム：儒仏二教と仏教（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田 俊
2. 発表標題 中国近世思想史上の司馬光『法言注』と『道德真經論』 - 性・質・学・諸子を中心に
3. 学会等名 日本道教学会第七十二回大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 山田 俊	4. 発行年 2022年
2. 出版社 汲古書院	5. 総ページ数 722
3. 書名 金朝道家道教の諸相	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	山田 俊  (YAMADA TAKASHI)  (30240021)	熊本県立大学・共通教育センター・教授    (27401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関